

学校法人福山大学中期計画

(令和5年度 ~ 令和9年度)

令和5年12月一部修正版

福山大学 中期目標・中期計画 ～令和5年度から令和9年度を視野に入れて～

No.1

目標・計画分野	中期目標（到達点）	中期計画（具体的道筋・方法）	達成に向けたKPI（重要業績評価指標）
<p>目的・使命</p>	<p>本学の建学の精神に沿って策定された目標を遵守し、人間性を尊重し、調和的な人格陶冶を目指す全人教育を行う。 本学の使命を「地域社会の発展に寄与するとともに、地域の中核となる未来創造人の育成」と定め、使命の実現に努める。</p>	<p>建学の精神に連なる三蔵五訓を踏まえ、1. 真理の探究と道理の実践、2. 豊かな品性と強い意志の涵養、3. 生命と自然の尊重、4. 個性の発揮と信頼に基づく人間関係の構築、5. 可能性への挑戦、6. 地域社会の発展への貢献を実践。</p>	<p>目的・使命の中期目標及び中期計画についてはKPIを今後検討する。</p>
<p>教 育</p>	<p>「福山大学教育システム」並びに「福山大学共通教育」（共に平成20年制定、平成28年改訂）を基本的拠り所として、教育実践のいっそう深化・実質化を図る。そのために以下の事項に取り組む。 ①学修成績、成果の教育システム改善への活用。 ②グローバル化の推進。 ③態度・志向性の獲得を目指した教育の取入れ。 ④ディプロマ・ポリシーに基づく年次別到達目標と授業科目との関係を可視化した各学科別カリキュラムマップの策定。 ⑤アクティブ・ラーニングの継続と深化。 ⑥ICTの授業への積極的導入による教育のデジタル化。 ⑦令和元年度以来導入している本学独自の教育成果のアセスメント・ポリシーの改善。 ⑧地域社会から求められる人材を育成するため、教育プログラムや教育研究組織の柔軟かつ機動的な改編整備。 ⑨数理・データサイエンス・AI教育の高度化。</p>	<p>ハイブリッド型、ハイフレックス型の遠隔授業のメリットを活かし、大学教育のデジタル・トランスフォーメーション（DX）化を展開するとともに授業科目を精選する。 ① Functional GPAを採用し、奨学生採用、退学勧告などにFunctional GPAを利用。 ② 授業内容や成績評価とディプロマ・ポリシー（DP）の関係を明示したシラバスの改訂。 ③ 正課活動において学生が地域連携活動を行いやすくするための方策を導入。 ④ キャリア教育プログラムとインターンシップによるキャリア形成支援を行う組織間の連携を強化。 ⑤ 本学キャンパスと因島キャンパスや福山平成大学との遠隔授業の双方向利用の実現。 ⑥ 本学独自のアセスメント・ポリシーにおける計算方法及び評価ルーブリックを見直すなどのブラッシュアップを継続。 ⑦ 教育ニーズの分析を実施。 ⑧ 数理・データサイエンス・AI教育の全学展開。</p>	<p>① 教育目的達成のための学修環境の整備と有効な活用。 ② 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの周知。 ③ ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用。 ④ カリキュラム・ポリシーに沿った体系的教育課程の編成と実施。 ⑤ インターンシップを含む、キャリア教育の支援体制の整備。 ⑥ 学習者ニーズ等を踏まえた教育実施体制の整備と教育プログラムの改編を通じた未来創造人の育成。 ⑦ 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの修了者数。</p>
<p>学生支援</p>	<p>担任制によるきめ細かい指導、オフィスアワー、学修支援室における個別指導、共通教育について語りあう「フクトーク」や種々のアンケートを通じて学生の声を吸収し、学生支援に活かす。また、総合的なキャリア形成支援体制を構築して資格取得活動の支援と就職支援の充実を図り、「面倒見の良い支援」を徹底するとともに、障害のある学生を含むキャンパスのダイバーシティ化を推進する。</p>	<p>① 担任と指導する学生との必要時における円滑な連絡方法の確立。 ② オフィスアワーにおける学生指導の充実。 ③ 中途退学、休学及び留年を防止するための有効策を実施 ④ 課外における学生による地域連携活動の充実と支援体制の整備。 ⑤ 学修支援室の活用頻度やeラーニング教材によるリメディアル教育の充実。 ⑥ 資格取得支援のための検定試験受験準備の支援や資格取得の奨励。 ⑥ 就職支援のための適切な規模と頻度で企業説明会等の会合を開催。 ⑧ 障害のある学生に対する支援をはじめ学生のニーズに合った対応の強化。 ⑨ 「学生による授業評価アンケート」や学長室訪問などを通じて、学生のニーズを吸上げ、ニーズに合った対応を強化。</p>	<p>① 担任と指導学生との電話や実施可能な連絡方法の有無。 ② 学生の健康相談、心的ケア、生活相談などの適切な実施。 ③ 中途退学、休学及び留年者数の把握。 ④ オフィスアワーにおける指導学生の来談の有無。 ⑤ 教員が顧問となっているサークル活動への関わりと指導の有無。 ⑥ 学修支援室やeラーニング教材の使用頻度の向上。 ⑦ 種々の検定試験の受験準備支援の有無。 ⑧ 各種資格の取得者数。 ⑨ 合同企業説明会、卒業生による業界説明会、企業懇談会等の開催頻度と参加人数、および就職内定率。 ⑩ 心身に障害を抱える学生の受入れと受入れ後のケアの適切性。</p>

福山大学 中期目標・中期計画 ～令和5年度から令和9年度を視野に入れて～

No.1

目標・計画分野	中期目標（到達点）	中期計画（具体的道筋・方法）	達成に向けたKPI（重要業績評価指標）
学生受入れ	<p>入学定員充足率及び収容定員充足率は、本学における教育研究の維持と発展に密接に関係している。また、各学部学科に学生が増えることは、地方大学に求められる地域社会への貢献にもつながる。そして、何よりもキャンパスに多くの学生が集うことは、学生に活気と希望を与え、教職員によるこびと向上心をもたらす。令和4年度以降の入学定員充足率の改善のため、受験生や保護者、高校の進路関係者から選ばれる大学になるよう改革を進める。その実現に向けて、福山大学ブランドを明確に発信する広報活動をいっそう展開するとともに、選抜方法を見直し、改善を図る。</p>	<p>学生獲得競争が激化する少子社会において、選抜方法の不断の見直しが必要であり、福山平成大学との合同で次年度以降の見直しを継続。</p> <p>① 受験生が理解しやすいアドミッション・ポリシー（AP）に向けた見直し。 ② 高校進路指導関係者や受験生への働きかけを強化。 ③ 大学ホームページを教職員が頻繁に更新できるシステムに改善。 ④ 福山大学ブランド普及を促進。 ⑤ 入学選抜において、特色を出した選抜方法を検討。 ⑥ 公募推薦型選抜や一般選抜の問題作成に関しては、本学独自の質の高い作問体制を維持。 ⑦ 広報戦略の重視と改善。</p>	<p>① 教育目的を踏まえ、高校生が理解でき、受け入れられるアドミッション・ポリシーの見直しと周知。 ② 入学選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用し、その検証。 ③ 受験生の動向調査及びオープンキャンパス参加者のうちの出願者数及び入学定員数の把握。 ④ 入学定員及び収容定員に沿った適切な学生数の受入れ。 ⑤ 入試問題の大学による独自作成の維持。</p>
研究	<p>豊穡の瀬戸内海に臨み、全国有数の里山地域が広がり、特色ある地場産業が集積したものづくり産業の盛んな備後地域という本学の立地環境を活かした福山大学ブランドの研究プロジェクト「瀬戸内の里山・里海学」を総合大学として推進するとともに学部・大学院教育に展開する。人との関わりの中で生物多様性を育む里山・里海を研究し、自然共生社会への道を模索しつつ資源を利用し、ものづくりを含む経済活動や文化活動を活性化することを目的とし、SDGsとして地域に貢献するとともに、「瀬戸内モデル」として研究成果を広く打ち出していく。また、里山・里海学の直接関わらない研究も奨励し、その発展を支援する。</p>	<p>① 福山大学ブランドの研究テーマに限れば、大きく4つの分野、すなわち、1.里山・里海の自然の把握、2.里山・里海の資源利用と経済循環、3.里山・里海の歴史・文化的理解、4.里山・里海のひと・まち・くらしの創造に分け、各関連の研究プロジェクトを推進。 ② 総合大学の強みを活かし、学際的研究組織や「備後圏域経済・文化研究センター」の研究拠点化。 ③ 全世界的な喫緊の課題であるカーボンニュートラル達成に貢献するため、「瀬戸内の里山・里海学」の主要なテーマにカーボンニュートラルの要素を取入れ。 ④ 地域の機関との受託研究・共同研究を推進。</p>	<p>① 「瀬戸内の里山・里海学」を構成する各プロジェクトの研究目的の明文化。 ② 「瀬戸内の里山・里海学」を構成する各プロジェクトの研究組織の適切性と円滑な運用。 ③ 「瀬戸内の里山・里海学」を構成する各プロジェクトに係る地域社会との適切な連携。 ④ 「瀬戸内の里山・里海学」を構成する各プロジェクトの研究成果の適切な広報活動（新聞、雑誌、TV等の報道回数など）。 ⑤ 「瀬戸内の里山・里海学」以外の研究の充実・発展と社会に向けての広報活動の展開。 ⑥ 研究に係る競争的外部資金の獲得奨励と獲得実績。</p>
地域貢献	<p>地域の「知の拠点」として、地域の中核となる「未来創造人」を育成し、地域に根差した総合大学として、社会連携センターが仲介機能を発揮し、大学の第三の使命と言われる研究成果の社会還元を努める。このため、一般社会人を対象とした公開講座に加えて、中学生・高校生が興味を持つ公開講座の企画・実施を行い、オンライン講座を活用し、フレキシブルな学び直し（リスキリング及びリカレント教育）の機会を提供する。また、技術講習会や地域企業が大学の研究室・施設を利用した人材育成制度（受託研究員制度）の拡充を図る。各種企画や活動の拠点として、社会連携推進センターのいっそうの利活用を進める。</p>	<p>① 福山市等との包括協定に基づき、福山大学の施設利用あるいは共同利用を推進。 ② リカレント教育、公開講座、高大連携授業、市民文化交流を推進。 ③ 学内の各種企画事業や研究者（研究室）のタイムリーな情報発信を推進。 ④ 地域の外部機関との受託研究・共同研究を推進。 ⑤ 研究者情報冊子を毎年更新・発行。</p>	<p>① 地域活動を担う組織は適切に組織され、機能しているか点検。 ② 地域活動ではどのような取組を行い、どのような成果をあげているか点検。 ③ 地域活動の点検評価を行い、改善に取り組んでいるか点検。 ④ 地域の諸機関からの外部資金の獲得実績及び行政機関等の会議構成員としての参画実績。</p>

福山大学 中期目標・中期計画 ～令和5年度から令和9年度を視野に入れて～

No.1

目標・計画分野	中期目標（到達点）	中期計画（具体的道筋・方法）	達成に向けたKPI（重要業績評価指標）
国際交流	<p>大学における国際交流は、学生教育にとっても研究にとっても近年ますます重要性を増しており、国際センターと各学部・学科を中心に、海外教育機関との協定締結、協定大学からの留学生受入れと支援、日本人学生の海外派遣促進、教職員の国際交流等本学の教育及び研究の国際交流推進にっそう努める。外国人留学生の受入れ・在籍する日本人学生の留学による国際交流活動を通じて「未来創造人」を育成し、学内の国際交流に必要な環境及び組織の整備を進める。COVID-19収束後の海外留学には、渡航の手続きや感染症による規制など多くの点で新たなルールが適用される。その反面、遠隔による学修の深化や適正化など、より進化した海外留学の発展型も期待される。</p>	<p>① JSTのさくらサイエンスプログラム等を通じた研究者交流や若手教員の海外派遣の拡充。 ② 学生の海外語学研修等への参加を促す働きかけ。 ③ 海外留学・研修プログラムの多様化。 ④ 海外協定校の新規開拓。 ⑤ 優良な学部・大学院留学生の受入れ。 ⑥ 留学生の日本での職活動をより有利にするため、日本語能力試験でのN1取得を促すなど、就職活動の全学的サポート。 ⑦ 留学生支援体制の拡充。 ⑧ グローバル・ラウンジなどを活用した日本人学生と留学生との交流の深化。</p>	<p>① 厳格な入学定員管理に基づく優秀な留学生選抜と受入れ数。 ② 厳格な選抜を通じた学生の留学派遣数。 ③ 交流先として適切な海外協定大学の新規開拓数。 ④ 留学生支援の充実。 ⑤ 留学生の日本国内での就職促進と就職内定率の向上。 ⑥ 研究者交流・若手教員の海外派遣の推進と派遣実績。 ⑦ グローバル・ラウンジの活用度。</p>
内部質保証	<p>自己点検評価活動を行う制度を見直し、内部質保証に役立つ実質的な制度を構築し機能的に運用する。また、学生、保証人、教職員の意見や要望を汲み上げ、改善につなげる仕組みを制度化して、機能的に運用する。さらに、Institutional Research(IR)によるデータの収集と分析、その結果を改善につなげる組織を制度化する。</p>	<p>① 自己点検評価を可能な限り簡略化し、効果的かつ効率のよい制度を構築。 ② 自己点検評価結果と予算・人事・教育との連動。 ③ 各種アンケート等による意見の汲上げの制度化と、改善に責任を負う部署の明確化。 ④ IR室のスキル向上と機能強化。 ⑤ 各部署によるIR室の活用を推進。</p>	<p>① 自己点検評価結果の予算要求書への反映。 ② 自己点検評価結果の人事計画への反映。 ③ 各種アンケート結果を改善につなげた実績。 ④ 自己点検評価結果のカリキュラムへの反映度合い。 ⑤ IR室による情報・分析結果の活用度合い。</p>

福山平成大学 中期目標・中期計画 ～令和5年度から令和9年度を視野に入れて～

No. 1

目標・計画分野	中期目標（到達点）	中期計画（具体的道筋・方法）	達成に向けた KPI（重要業績評価指標）
目的・使命	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神の堅持 2. 明確な教育理念・教育目的のもとでの教育 3. 地域のリーダーとなる人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 初年次教育での自校教育などを通じての、建学の精神の周知徹底 2. 教育理念の共有と、各学部の教育目的を掲げての教育活動の実施 3. 地域との協働推進を通じての学修と地域理解の深化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生調査などを通じての、建学の精神の浸透状況 2. 各種調査などを通じての、建学の精神・教育理念・教育目的の一貫性の実現状況 3. 卒業生の地域における活躍状況
教 育	<p>学生の潜在能力を引き出し、成長させる教育を推進する。そのために、大学教育センターを強化し、下記の充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学修成果の可視化を活用した「学びのPDCA サイクル」の整備 2. FD などを活用した授業改善の推進 3. キャリア教育の充実 4. 能動学修の推進・充実 5. 初年次教育およびリベラルアート教育の充実 6. ICT を活用した教育の充実 7. 数理・データサイエンス・AI 教育の推進・充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「知識・理解」「技能」「態度・志向性」の各領域の学修達成度の可視化の推進 2. FD 推進委員会による啓発活動や情報交換の促進 3. キャリア科目の充実によるインターンシップの参加などの促進 4. 授業科目へのアクティブラーニングの導入促進 5. 初年次教育科目の内容の充実化 6. 必携化しているノート PC の授業への活用促進、ICT の高度活用 7. 数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な履修プログラムの推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学修成果の可視化の活用・状況 2. FD 研修会などの実施回数 3. インターンシップ参加者数 4. アクティブラーニングの導入科目の割合 5. 初年次教育科目の学生の評価 6. 必携化しているノート PC を利用した授業科目の割合、ICT 高度活用授業科目の割合 7. 数理・データサイエンス・AI 教育の履修プログラムの修了者数
学生支援・教育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担任制でのきめ細かい学生指導(就職を含む) 2. 資格取得支援の充実 3. 学生のニーズに応える体制の整備 4. 課外活動支援の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラス担任による日常的な指導と、授業出席状況や GPA などの教員間の情報共有の充実 2. 資格試験受検料補助や合格奨励金給付制度の整備・充実 3. オフィスアワーや学長カフェなどを通じた学生の意見聴取の機会の充実 4. 教育設備・機器の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラス担任による指導状況や学生の留年率・退学率など 2. 資格試験受検料補助や合格奨励金給付制度の利用者数 3. 聴取された学生の意見と対応状況 4. 教育設備・機器などの整備状況
学生受入れ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 収容定員の充足 2. 多様化する志願者への適応 3. アドミッション・ポリシーに基づく入学生の受入れ 4. 魅力的で効果的なオープンキャンパスの実現 5. 効果的なホームページの作成・運用 6. 高校訪問の充実化など効果的な学生募集活動の実現 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果的な学生募集活動の展開、ブランドの浸透、広報活動の充実 2. 総合型選抜の試験実施方法の見直し・改良 3. アドミッション・ポリシーの入学試験実施への反映の強化、及び入学時調査 4. オープンキャンパスの見直し・改善 5. アクセス解析などに基づいた効果的なホームページへのリニューアル 6. 効果的な高校訪問の実現に向けてデータベースの作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 志願者数・入学者数の実績, 本学ブランドの浸透状況 2. 総合型選抜の志願者数・入学者数の実績、及び入学後の状況 3. 入学時調査でのアドミッション・ポリシーの反映状況 4. オープンキャンパスの参加者数の実績、及び参加者の反応 5. ホームページのアクセス数・リピート率の改善実績 6. 高校訪問の効果の実績

目標・計画分野	中期目標（到達点）	中期計画（具体的道筋・方法）	達成に向けた KPI（重要業績評価指標）
研究	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究活動の活発化及び研究成果の公表促進 2. 地域との共同研究・受託研究の推進 3. 外部競争的資金獲得の促進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画の策定と出版助成制度などによる支援 2. 研究シーズ集の発行などによる、地域への情報発信の強化 3. 講習会開催など外部競争的資金獲得に向けた支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究発表件数及び紀要論文件数 2. 共同研究・受託研究件数 3. 外部競争的資金の採択件数・金額
社会連携・国際交流	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座の充実 2. 大学間連携事業の推進 3. 産学官連携事業の促進 4. 各学科の特色を活かした地域貢献の促進、リカレント教育への取り組み 5. 学生の短期留学・海外研修の促進 6. 外国人留学生が学びやすい環境の整備 7. 各学科の特色を活かした海外研修プログラムの開発・発展 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座の方法・テーマなどの改善 2. びんご6大学エクステンション事業や、一般社団法人教育ネットワーク中国との連携 3. 福山市産学官連携推進会議や、じばさんフェアなどへの積極的参加 4. 各学科の特色を活かした地域貢献を目的とした情報発信の強化、リカレント教育の提供 5. 各学科の特色・短期留学・海外研修制度の整備・奨励 6. 外国人留学生と日本人学生の交流の促進などの外国人留学生の支援 7. 各学科の特色を活かした海外研修プログラムの改良・奨励。国際交流に資する海外協定大学の増加 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座の受講者数 2. 大学間連携事業の参加実績 3. 産学官連携事業の参加実績 4. 各学科の特色を活かした地域貢献、リカレント教育の実績 5. 短期留学・海外研修の 学生参加実績 6. 外国人留学生入学者数の実績、日本人学生の交流実績、外国人留学生支援の充実・満足度 7. 各学科の特色を活かした海外研修プログラムの実績
内部質保証	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教学マネジメントの強化とアセスメント評価体制の充実 2. IR を活用した体系的なデータ収集・分析とアセスメントへの応用体制の確立 3. 教員の自己点検評価体制の充実 4. 学修達成度の可視化の充実 5. 外部のステークホルダーからの評価・分析体制の機能的運用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己評価委員会による、大学・学科・学生レベルの評価の PDCA サイクルへの利用の促進 2. IR を活用した体系的な data 収集・分析による教育改善への活用体制の確立 3. 教員の自己点検評価システムの改善、評価結果の人事への反映とフィードバックの促進 4. 学修達成度の可視化の充実・利用促進、全学部でのティーチングポートフォリオの導入と活用 5. 外部評価委員会や卒業生アンケート・卒業生就職先アンケートなどの評価の分析 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学・学科・学生レベルでの評価の改善状況 2. IR を利用して収集・分析したデータの蓄積・有効利用状況 3. 自己点検評価システムの改善状況 4. 学修達成度の改善状況、ティーチングポートフォリオの導入と活用状況 5. 外部評価委員会や卒業生・卒業生就職先などからの意見の反映度

学校法人福山大学人事計画（令和5年度～令和9年度）

		所属	設置基準上 必要教員数	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度	令和8 年度	令和9 年度
教 員	福 山 大 学	教 員 数 (除 助 手)	経済学部	27 (14)	33 (14)	35 (16)	34 (15)	34 (15)	34 (15)
			人間文化学部	19 (10)	28 (11)	29 (12)	29 (12)	29 (12)	29 (12)
			工学部	31 (16)	37 (20)	39 (20)	39 (20)	39 (18)	39 (18)
			生命工学部	25 (13)	36 (24)	35 (23)	35 (23)	34 (23)	33 (22)
			薬学部	31 (16)	41 (20)	42 (20)	42 (20)	41 (19)	41 (19)
			センター等	38 (19)	19 (4)	20 (4)	20 (4)	20 (4)	20 (4)
			計	171 (88)	194 (93)	200 (95)	199 (94)	197 (91)	196 (90)
	助手	—	23	23	23	23	23		
	教員数(含助手)計	—	217	223	222	220	219		
	福 山 平 成 大 学	教 員 数 (除 助 手)	経営学部	12 (6)	15 (9)	15 (8)	16 (8)	16 (8)	16 (8)
			福祉健康学部	32 (16)	39 (19)	42 (19)	41 (20)	42 (20)	42 (21)
			看護学部	12 (6)	24 (8)	25 (9)	26 (9)	26 (9)	26 (9)
			センター等	17 (9)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	2 (1)
計			73 (37)	80 (37)	85 (37)	86 (38)	86 (38)	86 (39)	
助手		—	5	5	5	5	5		
教員数(含助手)計	—	85	90	91	91	91			
学校法人福山大学教員計			—	302	313	313	311	310	
職 員	法人事務局		—	4	4	4	4	4	
	福山大学		—	71	79	79	79	79	
	福山平成大学		—	19	19	19	19	19	
	学校法人福山大学職員計		—	94	102	102	102	102	
学校法人福山大学教職員総計			—	396	415	415	413	412	

注1：教員数(除助手)欄の教員数の()には教授数を記載

注2：センター等の設置基準上必要教員数は、大学全体の収容定員に応じ定める教員数を記載

注3：令和4年度欄は令和4年10月1日時点の実数を記載

学校法人福山大学施設整備計画（令和5年度～令和9年度）

令和5年12月一部修正

【令和5年度】

- 学校法人福山大学爽風会館改修工事
教員宿舎として使用している爽風会館を研修施設に改修

- 講義室の整備・充実（LED照明化他）

【令和6年度】

- 福山平成大学14号館（学生ホール・アクティブラーニング棟）新築工事
1～2階学生ホール（収容定員：704人）、2階アクティブラーニングルーム
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 2階建て
建築面積 1,764.59 m²、延床面積 2,624.60 m²
建設予定地：図書館（8号館）南側空地
令和6年12月末完成予定

- 講義室の整備・充実（LED照明化他）

【令和7年度】

- 福山大学聚志館（ものづくり工房）
鉄筋コンクリート造一部木造 地下1階地上2階建て
床面積 1,626.57 m² 建設予定地：8号館跡地
令和7年4月完成予定

- 講義室等の整備・充実（LED照明化他）

【令和8年度】

- 講義室等の整備・充実（LED照明化他）

【令和9年度】

- 福山大学第三女子寮新築工事及び既設女子寮改修工事
 - ・女子寮（50人収容）：鉄筋コンクリート造 4階／地下1階建て 面積約1,900 m²
建設候補地：薬草園西側
 - ・女子寮新築工事に伴い既設女子寮を改修

- ※ ただし、今後の入寮希望学生数の状況によっては、再度延伸することもありうる。

- 講義室等の整備・充実（LED照明化他）

※ 上記のほか、毎年度、福山大学及び福山平成大学の修学環境の整備・充実のため、各種改修工事等を実施

学校法人福山大学財務計画(令和5年度～令和9年度)

令和5年12月一部修正

(単位:千円)

科目		令和4年度 補正予算額	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,563,800	5,661,630	5,357,780	5,717,020	5,971,100	6,245,460
		手数料	112,300	112,300	111,600	115,000	116,000	117,000
		寄付金	17,400	14,000	14,000	15,000	16,000	17,000
		経常費等補助金	1,113,330	1,012,760	1,015,360	1,040,000	1,050,000	1,060,000
		付随事業収入	57,770	59,470	56,470	56,000	56,000	56,000
		雑収入	165,930	195,430	169,580	212,000	213,000	214,000
		教育活動収入計	7,030,530	7,055,590	6,724,790	7,155,020	7,422,100	7,709,460
	事業活動支出の部	人件費	3,793,900	3,915,600	3,925,400	3,899,000	3,893,000	3,903,000
		教育研究経費	3,417,698	3,357,286	3,408,520	3,440,000	3,507,000	3,525,000
		(うち奨学費)	(1,223,600)	(1,206,300)	(1,220,600)	(1,285,623)	(1,336,881)	(1,342,884)
		(うち減価償却額)	(981,050)	(957,738)	(981,813)	(974,463)	(980,589)	(981,843)
		管理経費	367,284	355,153	360,004	362,000	355,000	347,000
		(うち減価償却額)	(64,243)	(55,683)	(53,286)	(46,924)	(55,015)	(47,261)
		徴収不能額等	0	0	0	0	0	0
教育活動支出計	7,578,882	7,628,039	7,693,924	7,701,000	7,755,000	7,775,000		
教育活動収支差額		△ 548,352	△ 572,449	△ 969,134	△ 545,980	△ 332,900	△ 65,540	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	54,000	57,000	66,000	66,000	66,000	66,000
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	54,000	57,000	66,000	66,000	66,000	66,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	4,748	3,837	2,926	2,015	1,104	433
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	4,748	3,837	2,926	2,015	1,104	433
教育活動外収支差額		49,252	53,163	63,074	63,985	64,896	65,567	
経常収支差額		△ 499,100	△ 519,286	△ 906,060	△ 481,995	△ 268,004	27	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	20,000	1,000	1,500	31,000	31,000	31,000
		特別収入計	20,000	1,000	1,500	31,000	31,000	31,000
	事業活動支出の部	資産処分差額	8,571	0	0	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	8,571	0	0	0	0	0
特別収支差額		11,429	1,000	1,500	31,000	31,000	31,000	
〔予備費〕		0	0	20,000	20,000	20,000	20,000	
基本金組入前当年度収支差額		△ 487,671	△ 518,286	△ 924,560	△ 470,995	△ 257,004	11,027	
基本金組入額合計		0	0	0	0	0	0	
当年度収支差額		△ 487,671	△ 518,286	△ 924,560	△ 470,995	△ 257,004	11,027	

(参考)

事業活動収入計	7,104,530	7,113,590	6,792,290	7,252,020	7,519,100	7,806,460
事業活動支出計	7,592,201	7,631,876	7,696,850	7,703,015	7,756,104	7,775,433

主な財務比率

人件費比率	53.6%	55.1%	57.8%	54.0%	52.0%	50.2%
人件費依存率	68.2%	69.2%	73.3%	68.2%	65.2%	62.5%
教育研究経費比率	48.2%	47.2%	50.2%	47.6%	46.8%	45.3%
管理経費比率	5.2%	5.0%	5.3%	5.0%	4.7%	4.5%
奨学費比率	22.0%	21.3%	22.8%	22.5%	22.4%	21.5%
減価償却額比率	13.8%	13.3%	13.4%	13.3%	13.4%	13.2%